

 文学座創立 80 周年記念

2016 年  文学座 12 月アトリエの会

— 久保田万太郎作品二本立て —

かどで

演出／坂口芳貞

舵

演出／五戸真理枝

2016 年 12 月 7 日 (水) ~ 21 日 (水)

信濃町 文学座アトリエ

演出—かどで— 坂口芳貞

文学座演技部所属。演出家、声優としても活躍する。近年ではワイルダーの『わが町』やチェーホフの『三人姉妹』といった古典の翻訳物を演出している。桜美林大学総合文化学群教授として演劇教育にも尽力した。出演作品も2009年『定年ゴジラ』、2010年『麦の穂の揺れる穂先に』、2012年『海の眼鏡』、2013年『十字軍』、同年『大空の虹を見ると私の心は躍る』、2014年『天鼓』、2015年『リア王』、同年『明治の枢』と連続しており、ベテランとして劇団をリードする存在である。



- ・1963年4月文学座附属演劇研究所入所 同年5月久保田万太郎逝去。
- ・1967年万太郎作品初出演『大寺学校』(文学座本公演)
- ・1992年万太郎作品初演出『かどで』(文学座アトリエの会)
- ・2000年二度目の『かどで』演出(俳優座劇場プロデュース)

「俳人でもある久保田万太郎の劇世界は、削ぎ落とされた言葉で世界を捉えてみせる。それを表現するには、演技も演出も瞬間瞬間を充実させることに専心し、その瞬間を積み重ねることだと思う。あるテニス選手が話してたのだが、若い選手は勢いで攻撃を仕掛けていき、ベテランは余裕を持って計算通りに試合を運ぶようにイメージしがちであるが、実際には、若い選手はねばってねばって最後に逆転という展開が多く、ベテランほどここぞという時に一気に相手を叩き潰すそうだ。僕は今回、若々しいねばりでしつこく万太郎の世界に迫ります。」

演出—舵— 五戸真理枝

文学座附属演劇研究所45期。2010年より座員。文学座演出部所属。中学生の時に見た全国高校演劇コンクールの舞台に感銘を受け、演劇にはまる。大学卒業後、小劇団を旗揚げるも修行不足を実感。文学座で一から勉強することを決意。小道具係、衣裳係、演出助手などで多数の公演に参加しながら戯曲の執筆も行い、座内勉強会や外部にて作品を発表する。主な作/演出作品に2007年『零下62度』、2009年『君とぼくの未来』、2011年『子ねずみチヨロネの物語』、2016年『たまことゆかり』等がある。今回の『舵』が文学座初演出作品。今後の活躍が期待される新人である。



「彫琢を極めた台詞が久保田万太郎作品の魅力ですが、言葉だけではなく肉体を意識し、登場人物の動作・仕草でその人間の歴史やサイドストーリーを浮き上がらせることができないうか考えています。固定観念にとらわれないうで、もしかしたら今までの万太郎作品の上演では見たこともない演出も採り入れて、より深く物語を伝えられればと思います。」

作家 久保田万太郎 1889年(明治22年)～1963年(昭和38年)

浅草田原町生まれの俳人、小説家、劇作家。慶應義塾大学卒。生家は「久保勘」という袋物の製造と販売を営む商家。1937年(昭和12年)、岸田国土、岩田豊雄らと劇団文学座を結成。以後新派、新劇、文学座の演出を数多く手がける。1945年(昭和20年)文学座の財産演目である「女の一生」初演の演出を手掛ける。下町言葉で庶民の哀歎を描いた作品を数多く発表した。俳句誌『春燈』の主宰をつとめる。俳号は暮雨、傘雨。



スタッフ

美術／乗峯雅寛

照明／阪口美和

音響効果／丸田裕也

衣裳／中村洋一

舞台監督／寺田 修

制作／白田 聡、友谷達之、山下 悠

イラストとチラシデザイン／チャーハン・ラモーン

出演者

—かどで—



関 輝雄
職人の一

大滝 寛
彦市

沢田冬樹
職人の三

西岡野人
職人の二

山森大輔
職人の五

内藤裕志
職人の四

相川春樹
秀太郎

齊藤一樹
職人の六



名越志保
おのぶ

鈴木亜希子
おせん

大野香織
女中

あらすじ

袋物職人の細工場で、職人たちがそれぞれの仕事をしている。手を休めることなく交わされる世間話。奥の部屋では北海道に落ちていく元女中が乳飲み子を抱いて、おかみさんに最後の挨拶に来ている。やっと年が明けた日、これからは手工業ではなく機械の時代になると知り、愕然とする若い職人。彼は今日、晴れて一本立ちをする目出度い日であったのだが、時代を象徴するそれぞれの門出を淡々とした台詞で描く。

—舵—



田中明生
良吉

山森大輔
徳太郎

宮澤和之
清治

山本郁子
おしま

福田絵里
おのぶ

大野香織
おふさ

あらすじ

袋物職人の良吉を訪ねて女がやってくる。良吉は留守にしており、弟の清治が相手をしていた。女はこの兄弟の姉、おしま。随分と久しぶりに訪ねてきたが、只ならぬ要件を持ってきたらしい。良吉は浅草神社の三社祭をのぞきにいったというが、やけに帰りが遅い。するとひどく酔っ払った良吉が見慣れない若い男女に抱えられて帰ってきた。この若者たち、三人の姉弟と意外な関わりを持っているらしいのだが、一体…。

解説

劇団創立 80 周年記念アトリエの会第1弾として、岸田國士、岩田豊雄とともに文学座を創立した久保田万太郎の、東京下町に生きる職人の世界を描いた作品を二本立てにて上演。

昭和初期から戦後にかけて現代劇として書かれた万太郎の世界は、当時の生活そのものである。

そのセリフは【情緒の言葉】ではなく、【生活の言葉】なのだ。特に『かどで』では万太郎の生家と同じ袋物職人の細工場を描き、職人たちの黙々とした仕事ぶりや、その手を休めずに交わされる世間話が淡々と描かれる。『舵』においても下町に生きる人々が交わす会話から、紛れもなくそこにはそれぞれの人生があり、それぞれが大切な何かを守りながら生きていたことを示す。

時を経て私たちから遠いものになりつつある万太郎の世界。しかし、若い世代にとっては未知である分新鮮な世界でもある。

セリフやト書きの端々に残された生活感を丁寧に汲み上げ、舞台上に組み上げることによって懐かしさと共に時代を超えた【リアル】を感じられる、【いま】に生きる劇をご覧ください。

2016年12月7日(水)～21日(水)

〈前売開始〉11月1日(火)

公演日程

	12/7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
14:00		●	●	◇	◇	●		休演	●	●	◇	◇		●	●
19:00	●		◎				◎			◎			●		

◎=終演後アフタートーク開催

12/9 堀本裕樹(俳人)×五戸真理枝(『舵』演出)、田中明生、宮澤和之、山本郁子

12/13 藤田赤目(音響家)×乗峯雅寛(美術)×丸田裕也(音響効果)

12/16 出演者：大滝寛、沢田冬樹、内藤裕志、名越志保、鈴木亜希子

◇=その他公演関連アフタートークも開催。詳細はHPにて。

☆12/15(木)、20(火)17時よりシンポジウム開催！

シンポジウム vol.1 12/15(木)17:00～ (司会) 山口宏子(朝日新聞論説委員)

第1部「創立80年、私のこれまでの歩み」江守徹、金内喜久夫、寺田路恵

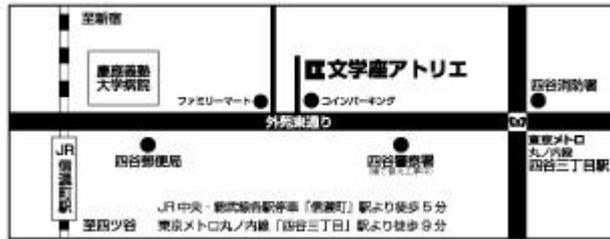
第2部「80周年のラインナップと創造」瀬戸口郁、鶴山仁、高橋正徳、上村聡史

シンポジウム vol.2 12/20(火)17:00～

『アトリエの原動力～新しい台詞との出会い』 (司会) 乗峯雅寛

戌井昭人、ノゾエ征爾 / 所奏、生田みゆき

会場 信濃町 文学座アトリエ



入場料 全席指定・税込

前売・電話予約	4,300 円	
当日	4,600 円	※当日開演の3時間前より 03-3353-3566 で受付
ユースチケット	2,500 円	※25歳以下/文学座のみ取扱い (要年齢証明)

チケット取扱い

文学座チケット	 0120-481034 (10:00~17:30/日・祝除く)
チケットぴあ	0570-02-9999 (Pコード: 453-701)
e+ (イープラス)	http://eplus.jp (PC・携帯共通)
文学座公式 HP	http://www.bungakuza.com (Getii より)

お問合せ

この演目へのお問い合わせは、企画事業部 白田・友谷・山下までお願いいたします。

文学座 03-3351-7265 (10:00~18:00/日祝を除く)

〒160-0016 東京都新宿区信濃町 10

<http://www.bungakuza.com> info@bungakuza.com